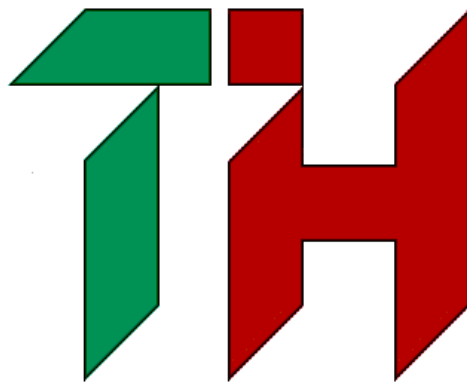


令和 3 年度
情報公開資料



学校法人伊東学園

テクノ・ホルティ園芸専門学校

① 学校の概要、目標及び計画

●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色

建学の精神

若い人たちの夢や希望の実現を手伝うこと

そのために多くの挑戦や失敗を恐れずに経験させ、そこから何らかを学び取ることで感性を磨き、ひいては自信と誇りを持って豊かな社会づくりに貢献できる人材を養成する

教育方針

- ・園芸業界の即戦力、その道のプロフェッショナルとして力を発揮できる人材を養成する
- ・栽培から流通・販売まで、また造園やデザインなども含めてバランスの取れた専門教育を行う
- ・理論の学習だけでなく、実習を通して技術の習熟を図る
- ・多方面に関連する園芸業界の状況に対応できるように、関連分野の教育も行う
- ・発展し変化する園芸業界の現状をふまえて、柔軟に対応できる人材を養成する
- ・社会人にふさわしいマナーや人間性を養成する
- ・若い人の持つ夢や目標を大切にし、その可能性を引き出して育てる教育を行う
- ・就職を共に考え、卒業後は同窓会組織などを通じて応援する

●校長名、所在地、連絡先等

法人名 学校法人伊東学園

校 長 伊東政信

所在地 埼玉県行田市埼玉 4758 番地 1 (〒 361-0025)

連絡先 電話 048-559-1187 Fax 048-559-1189

メール saitama-th@ito.ac.jp

ホームページ www.ito.ac.jp

●学校の沿革、歴史、学生の出展・受賞歴

1952	昭和27	学園の前身である神田予備校創立(東京都知事認可・各種学校)
1974	49	学校法人の認可を受け学校法人伊東学園を創立
1988	63	テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(埼玉県知事認可・専修学校、昼間部、2年制、学年定員80名)
1989	平成1	文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(3年間) 文部省主催、全国農業高等学校長協会の委託により高等学校産業教育実技講習会を実施 映画「千利休」(勅使河原宏監督)のために原種のアサガオを提供
1990	2	学年定員を110名に学則変更 国際花と緑の博覧会に「花と動物たちのふるさと」を出展。優秀賞・金賞を受賞 埼玉県知事 畑和氏が視察のために来校
1992	4	ジャパン フラワー フェスティバルに出展。金賞を受賞 全国造園建設業協会主催の全国デザインコンクールに2名入選 文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(2回目、3年間)
1996	8	(社)園芸文化協会主催文化展にコンテナガーデンを出展。文部大臣賞を受賞 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(平成15年まで)
1997	9	3年制課程スタート(園芸2類学科、昼間部、3年制、学年定員40名) / 第二校舎完成 アメリカ・フィラデルフィア・フラワーショーに日本庭園を出展。銀賞を受賞 文部省より、職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける 造園CADシステムの操作、造園用小型土木機械操作、熱帯植物栽培マニュアルの研究を行う 同じく、職業人再教育推進事業の委託を受ける ガーデナー養成講座を実施。新植木職・ガーデナー養成マニュアルを作成 高校生フラワーデザイン・園芸装飾コンテストを開催(平成19年まで)
1998	10	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(東京・御茶ノ水) 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(宇都宮) (社)日本家庭園芸普及協会より出展作品に関する感謝状を受領
1999	11	タイ国ラヨン県に熱帯植物栽培実習センターを開所 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1・銀賞1・銅賞1、敢闘賞2を受賞(静岡大会) 労働省委託 失業者を対象とした職業訓練を実施(平成14年まで) 文部省の委託によりチャイルドスクールを実施(以降、自主開催を含めて平成22年まで実施) (社)日本フラワーデザイナー協会より資格試験の普及に関する感謝状を受領
2000	12	タイ国文部省よりラヨン熱帯植物栽培学校が設置認可を受ける 技能五輪全国大会・造園部門において銀賞2、フラワー装飾部門において銅賞1、敢闘賞3を受賞(埼玉大会)
2001	13	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞2を受賞(福島大会) 静岡国際園芸博覧会に出展。最優秀賞、優秀賞を受賞 ジャパン フラワー フェスティバル(JFF)・フラワーアレンジ部門に出展。金賞を受賞 ジャパン ガーデニング フェアに出展。優秀賞を受賞
2002	14	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門ブーケの部に出展。優秀賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銅賞1を受賞(熊本大会) 花園フラワーショーにコンテナガーデン他を出品。金賞、銀賞他計6つの賞を受賞 JFF金賞受賞者が国際園芸博覧会の日本政府出展会場にオリジナル作品を展示 文部科学省委託 産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクトを実施 同じく、専修学校キャリアアップ教育推進事業を実施
2003	15	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞2、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(新潟大会) 全国造園デザインコンクール大学生の部 作品・実習部門で入選1、児童公園部門で佳作1を受賞 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門で金賞、銀賞、銅賞他を受賞 (社)全国学校農場協会主催の農業実験実習講習会を実施(フラワーデザイン、園芸療法)
2003	平成15	文部科学省委託 専修学校先進的教育研究開発事業、キャリアアップ教育推進事業を実施

2003	平成15	農林水産省の委託により新JUターン就農促進対策事業を実施 中央職業能力開発協会より職業能力開発に関する感謝状を受領
2004	16	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1(2人ペア)、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(岩手大会) 埼玉県知事上田清司氏より屋上緑化フェアの協力に関する感謝状を受領 同じく、彩の国5つのふれあい県民運動への取り組みに関する表彰状を受領
2005	17	ウィム・ハゼラー・トロフィーを開催 技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1を受賞(山口大会) 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門でグランプリ、金賞、銀賞、銅賞他を受賞 厚生労働大臣より技能検定への協力に関する感謝状を受領
2006	18	園芸文化協会との協業により実戦園芸塾を開講 日比谷公園ガーデニングショー・ペランダガーデン部門に出品。金賞、来場者人気投票1位を受賞
2007	19	ジャパン フラワー フェスティバルに出品。金賞を受賞 埼玉県知事上田清司氏が視察のために来校
2009	21	厚生労働省が提唱する失業者のための職業訓練を実施(平成27年度まで) 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(最終年)
2010	22	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門に出展。トロフィー賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(神奈川大会) 文花祭に行田市教育委員会の後援を得る(以降、毎年) 関東商工会議所連合会よりベストアクション表彰を受領
2011	23	東日本大地震が発生。行田市主催のボランティアに計4回参加 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において敢闘賞2つを受賞(静岡大会)
2013	25	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞2、敢闘賞1を受賞(千葉大会) 全国障害者技能競技大会(アビリンピック)・フラワーデザイン部門で金賞1を受賞 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞を受賞
2014	26	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1、敢闘賞1を受賞(愛知大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・埼玉県知事賞を受賞 埼玉県の委託により小学生対象のフラワーデザイン教室「夢のかけ橋」を実施(以降、毎年)
2015	27	第43回技能五輪国際大会World Skills Floristry Sao Pauloへ埼玉校研修生が出場 フラワーデザインの花材用テキストとして「花屋さんの花事典」(ナツメ社)を監修・出版
2016	28	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、敢闘賞2を受賞(山形大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・深谷市長賞を受賞
2017	29	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞1を受賞(栃木大会) 埼玉県職業能力開発協会より技能五輪全国大会への協力に関する感謝状を受領 全国農業会議所より農業次世代人材投資事業(準備型)の全国教育機関として認定される 農業次世代人材投資事業に応募した6名全員への交付が決定
2018	30	開校30周年記念同窓会を開催し、約500名の卒業生が来場 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1を受賞(沖縄大会) 金賞受賞者は、技能五輪国際大会(2019年8月ロシア・カザン)に出場予定
2019	31	職業実践専門課程の認定を受ける(園芸1類学科) 農業における生産工程管理(埼玉県版 S-GAP)の認証を受ける(栽培品目コマツナ)
令和1		行田市のオープンガーデンに初参加 第45回技能五輪国際大会World Skills Floristry Russia Kazan大会へ埼玉校卒業生が出場 高等教育の修学支援新制度(高等教育無償化)に認定される
2010	2	専門実践教育訓練給付金の講座指定を受ける(全コース) 新型コロナウイルス感染症対策として、入学式の延期や授業開始時刻の変更、各種行事の変更などを行う
2021	3	コロナ感染症対策を万全にして、卒業作品展、卒業式を実施する

② 各学科（コース）等の教育

●入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数

次に例示する素養を持った人物を、募集要項に基づいて募集している。

（この際、出願前に来校するなどして、本校に対する理解を深めることを求めている）

- ・花や緑の持つ素晴らしさを楽しむことができる人
- ・花と緑の素晴らしさを人々に知らせることを望む人
- ・花と緑を使って人に安らぎや癒しを与えることを望む人 など

農業専門課程、園芸 1 類学科、2 年制課程

募集定員：80 名

収容定員：160 名

学科・コース・専攻	令和 3 年度		令和 2 年度			令和元年度		
	入学	在籍	入学	在籍	退学	入学	在籍	退学
園芸 1 類学科	47 名		57 名			41 名		
花と野菜の農業ビジネスコース								
花き園芸専攻 ※							6 名	
野菜生産専攻 ※							5 名	
フラワーデザインコース ※							18 名	
造園・環境緑化コース ※							5 名	
花き生産コース *		11 名		10 名			4 名	2 名
野菜生産コース *		13 名		8 名			3 名	1 名
グリーンコーディネートコース *		18 名		17 名	2 名		11 名	
フラワーコーディネートコース *		36 名		37 名	1 名		18 名	1 名
造園コース *		23 名		20 名			5 名	2 名

在籍者数は各年度 5 月 1 日時点。

令和元年度の人数は、※印は 2 年生、*印は 1 年生。他は 1・2 年生の合計。

但し、コースへ所属する時期は 1 年次の後期からであるため、入学時の希望による。

退学者数は、学年を問わず年度を通じて退学した人数を記し、前期に退学した者はコースでの退学者として記していない。

●カリキュラム

教育目標（育て上げようとする人物像）

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

<カリキュラム・科目表>

(農業専門課程 園芸1類学科 花き生産コース) 令和3年度													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		企業等との連携
									講義	演習・実験・実習・実技	校内	校外	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について基本的に学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				分類・形態各論	園芸植物の分類や形態について応用的に学習する。	1後	15	0.5	○	△	○		○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				土壌肥料各論	花き生産における土壌、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○		○		○
○				病理性害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				病理性害虫各論	花き生産における病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△		○	○	○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△		○	○	○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○		○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○		○
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○		○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				花き園芸基礎	寄せ植え、花壇作成、基本的な農業機械の扱いなど様々な園芸作業を学習する。	1前	60	2	△		○	○	○
○				花き生産技術Ⅰ	花き生産の基礎から応用を学習する。	1後	60	2	△		○	○	○
○				花き生産技術Ⅱ	花き生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△		○	○	○
○				商品制作Ⅰ	植物を使用した商品の制作について学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				商品制作Ⅱ	植物を使用した商品の制作について学習する。	2通	30	1	△		○	○	○
○				生産販売流通Ⅰ	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	1後	30	1	△		○	○	○
○				生産販売流通Ⅱ	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	2通	60	2	△		○	○	○
○				施設管理Ⅰ	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				施設管理Ⅱ	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2通	60	2	△		○	○	○
○				花き育種・繁殖Ⅰ	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○				花き育種・繁殖Ⅱ	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2通	60	2	○	△	○	○	○
○				生育・開花調節概論	花き生産における開花調整の手法を学習する。	2通	30	1	○	△	○	○	○
○				農業機械Ⅰ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				農業機械Ⅱ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	30	1	△		○	○	○
○				マーケティングⅠ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△	○	△	○
○				マーケティングⅡ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	△	○
○				農業簿記Ⅰ	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○	△	○		○
○				農業簿記Ⅱ	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○	△	○		○
○				花き輸出入概論	花きの輸出入に関する基本的な知識を学習する。	2通	30	1	○	△	○		○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	180	6	△	○	△	○	○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○	○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2			○	○	○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○	○
○				選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	2通	120	4			○	○	○
○				資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	30	1	△		○	○	△
○						2通	30	1	△		○	○	△
○				資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○	△
○						2通	120	4	△	△	○	○	△
合 計							2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数 (但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)							1725	57.5					
卒業要件及び履修方法										授業期間等			
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。										1学年の学期区分	2期		
										1学期の授業期間	15週		

(農業専門課程 園芸1類学科 野菜生産コース) 令和3年度													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		企業等との連携
									講義	演習	校内	校外	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○
○				野菜生産各論Ⅰ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	1通	60	2	○		△	○	○
○				野菜生産各論Ⅱ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	2前	30	1	○		△	○	○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		△	○	○
○				土壌肥料各論	野菜生産における土壌、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○		△	○	○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				病理害虫各論	野菜生産における病害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○		△	○	○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△		○	○	○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△		○	○	○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○		△	○	○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△		○	○
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○	○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○	○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				野菜生産技術Ⅰ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	1通	135	4.5	△		○	○	○
○				野菜生産技術Ⅱ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△		○	○	○
○				次世代農業Ⅰ	植物工場などの次世代農業について学習する。	1後	30	1	○		△	○	○
○				次世代農業Ⅱ	植物工場などの次世代農業について学習する。	2通	30	1	○		△	○	○
○				販売技術Ⅰ	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				販売技術Ⅱ	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	2通	45	1.5	△		○	○	○
○				野菜育種・繁殖Ⅰ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				野菜育種・繁殖Ⅱ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2前	45	1.5	△		○	○	○
○				食品加工論Ⅰ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	1後	15	0.5	○		○	○	○
○				食品加工論Ⅱ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	2後	15	0.5	○		○	○	○
○				加工実習Ⅰ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				加工実習Ⅱ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	2後	15	0.5	△		○	○	○
○				農業機械Ⅰ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△		○	○	○
○				農業機械Ⅱ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	45	1.5	△		○	○	○
○				野菜栄養学	野菜の栄養価について学習する。	2後	15	0.5	○		○	○	○
○				施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2後	30	1	△		○	○	○
○				野菜栽培指導法	園芸教室や家庭菜園、市民農園などでの指導法について学習する。	2後	15	0.5	○		△	○	○
○				有機農業概論	有機農業の基本的な知識を学習する。	2前	30	1	○		△	○	○
○				マーケティングⅠ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△		○	○
○				マーケティングⅡ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△		○	○
○				農業簿記Ⅰ	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○	△		○	○
○				農業簿記Ⅱ	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○	△		○	○
○				農業英語	農業や園芸に関わる専門的な英語を学習する。	2後	15	0.5	○	△		○	○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	180	6	△	○	△	○	○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○	○	○
						2通	60	2			○	○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2			○	○	○
						2通	60	2			○	○	○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○	○
						2通	120	4			○	○	○
○				選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○	○	△
						2後	30	1	△		○	○	△
○				資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○	△
						2通	120	4	△	△	○	○	△
合 計							2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く）							1725	57.5					

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	15週

(農業専門課程 園芸1 類学科 グリーンコーディネートコース) 令和3年度													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		企業等との連携
									講義	演習	校内	校外	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△		○	○	○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△		○	○	○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を得得する。	1通	45	1.5	○	△		○	○
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○	○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○	○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				植物管理技術Ⅰ	校内で管理している見本植物を用いて、分類や管理のポイントを学習する。	1通	60	2	△		○	○	○
○				植物管理技術Ⅱ	校内で管理している見本植物を用いて、分類別に維持管理と繁殖等を行う。	2通	90	3	△		○	○	○
○				施設管理Ⅰ	植物の適切な管理を行うための温室や園場の環境整備を行う。	1後	30	1	△		○	○	○
○				施設管理Ⅱ	植物の適切な管理を行うための温室や園場の環境整備を行う。	2通	60	2	△		○	○	○
○				グリーンサービス基礎	グリーンサービスに関わる観葉植物の扱いを学習する。	1前	30	1	△		○	○	○
○				グリーンコーディネート実習Ⅰ	装飾作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	1後	120	4	△		○	○	○
○				グリーンコーディネート実習Ⅱ	装飾作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	2通	300	10	△		○	○	○
○				特殊空間緑化	屋上緑化、屋内緑化、壁面緑化の基礎を学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○				ガーデニング	ガーデンの設計や施工、コンテナガーデンやハンギングバスケットの制作を学習する。	2前	30	1	△	△	○	○	○
○				インテリア商品制作Ⅰ	観葉植物を用いた商品制作やその配置について学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○				インテリア商品制作Ⅱ	観葉植物を用いた商品制作やその配置について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○				植物販売技術Ⅰ	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を含めた園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○				植物販売技術Ⅱ	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を含めた園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○				マーケティングⅠ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△	○	△	○
○				マーケティングⅡ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	△	○
○				園芸指導技術	園芸講座の計画から運営までを実践的に学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	150	5	△	○	△	○	○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○	○	○
						2通	60	2			○	○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2			○	○	○
						2通	60	2			○	○	○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○	○
						2通	120	4			○	○	○
	○			選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○	○	△
						2後	30	1	△		○	○	△
	○			資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○	○
						2通	120	4	△	△	○	○	○
合 計							2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く）							1725	57.5					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(農業専門課程 園芸1 類学科 フラワーコーディネートコース) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任			
○			園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○			○		○	
○			花と緑の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○			○		○	
○			花と緑の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○			○		○	
○			分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○			○		○	
○			土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○			○		○	
○			病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○			○		○	
○			植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○			○		○	
○			園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△		○	○		○		○	
○			園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	45	1.5	△		○	○		○		○	
○			育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○			○	○	○	
○			グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△		○	○		△	○	○	
○			ビジネスマナーⅠ	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△		○		○		○	
○			ビジネスマナーⅡ	冠婚葬祭のマナー等について学習する。	2通	15	0.5	○	△		○		○		○	
○			園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○			○	○	○	
○			フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1通	120	4	△		○	○		○		○	
○			デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○		○		○	
○			カラーコーディネートⅠ	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○		○	
○			カラーコーディネートⅡ	カラーコーディネートの応用としてアレンジメント等を作成する。	2前	30	1	○	△		○		○		○	
○			造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△		○	○		○		○	
○			フラワーデザイン応用	ヨーロッパスタイルなど基礎を基にした様々な作品制作技術を習得する。	2通	180	6	△		○	○		○		○	
○			フラワーデザイン実説Ⅰ	いろいろなスタイルのアレンジメントや花束の制作技術を習得する。	1後	60	2	△		○	○		○	○	○	
○			フラワーデザイン実説Ⅱ	イベントや学校外での装飾技術を計画から作成まで一連の流れを通して学習する。	2通	90	3	△		○	○		○	○	○	
○			商品知識Ⅰ	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	1通	30	1	△		○	○		○		○	
○			商品知識Ⅱ	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	2通	45	1.5	△		○	○		○		○	
○			ショップビジネスⅠ	店舗運営に関する知識、技術（接客、陳列、経営など）を実習を交えながら習得する。	1通	30	1	△		○	○		○		○	
○			ショップビジネスⅡ	店舗運営に関する知識、技術（接客、陳列、経営など）を実習を交えながら習得する。	2通	90	3	△		○	○		○	○	○	
○			商品企画制作Ⅰ	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	1後	15	0.5	△		○	○		○	○	○	
○			商品企画制作Ⅱ	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	2通	120	4	△		○	○		○	○	○	
○			空間装飾Ⅰ	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	1後	45	1.5	△		○	○		○		○	
○			空間装飾Ⅱ	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	2通	120	4	△		○	○		○		○	
○			ブライダルフラワーⅠ	ブーケや卓上装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	1後	30	1	△		○	○	○	○	○	○	
○			ブライダルフラワーⅡ	ブーケや卓上装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	2通	45	1.5	△		○	○	○	○	○	○	
○			フューネラルフラワー	祭壇などの葬儀関連の商品制作やマナーについて学習する。	2前	30	1	△		○	○	○	○	○	○	
○			ビジネス文書	ビジネス文書作成について学習する。	1通	15	0.5	○	△		○		○		○	
○			簿記	簿記の基本的な知識を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○		○	
○			インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○		○		○	○	
					2通	60	2			○		○		○	○	
○			管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2			○	○		○		○	
					2通	60	2			○	○		○		○	
○			校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○		○			
					2通	120	4			○	○		○			
○			選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○	○		○	○	△	
					2後	30	1	△		○	○		○	○	△	
○			資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○		○	○	△	
					2通	120	4	△	△	○	○		○	○	△	
合 計						2460	82									
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く）						1710	57									

卒業要件及び履修方法							授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。							1 学年の学期区分	2期
							1 学期の授業期間	15週

(農業専門課程 園芸1類学科 造園コース) 令和3年度													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		企業等との連携
									講義	演習・実験・実習・実技	校内	校外	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○		○
○				花と緑の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○	○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	△	○
○				ビジネススマナ	社会人として必要なビジネススマナや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○	○
○				園芸流通	園芸業界の現状を事例の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○		○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○
○				造園基礎知識	造園に関わる基本的な知識を学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○				造園基礎技術	造園に関わる基本的な技術を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○				造園概論	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○				造園計画	図面の描き方、記号の表記方法、道具の使用方法、図面の読み取り方法等について学習する。	1後	90	3	○	△	△	○	○
○				造園施工Ⅰ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	1後	60	2	△	○	○	○	○
○				造園施工Ⅱ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	2通	180	6	△	○	○	○	○
○				造園管理Ⅰ	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	1後	60	2	△	○	○	○	○
○				造園管理Ⅱ	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	2通	180	6	△	○	○	○	○
○				樹木学Ⅰ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	1前	30	1	○	△	△	○	○
○				樹木学Ⅱ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	2前	30	1	○	△	△	○	○
○				装飾技術	寄せ植えなどの植物を使用した装飾技術について学習する。	1後	30	1	△	○	○	△	○
○				造園設計	図面作成を行いながら、設計について学習する。	2前	60	2	△	△	○	△	○
○				造園材料	石や砂、竹、芝など造園に必要な材料の知識とそれらの扱いについて学習する。	2後	60	2	△	○	○	○	○
○				環境緑化	都市緑化や生態系など造園に関わる環境や緑化技術について実習や調査を交えながら学習する。	2前	45	1.5	△	○	○	△	○
○				フィールドワーク	実際に校外での観察を行い、自然環境での植生や生態系について学習する。	2通	45	1.5		○	○	○	○
○				測量	平板測量やトランシットについて学習する。	2前	60	2	△	△	○	○	○
○				課題学習	造園に関連したイベント、見学場所やそれぞれの進路に応じたテーマを設定し、調査、研究しまとめる。	2通	120	4	△	○	△	○	○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○	○	○	○
						2通	60	2		○	○	○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2		○	○	○	○
						2通	60	2		○	○	○	○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4		○	○	○	○
						2通	120	4		○	○	○	○
○				選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△	○	○	○	△
						2後	30	1	△	○	○	○	△
○				資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○	△
						2通	120	4	△	△	○	○	△
合 計							2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数 (但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)							1725	57.5					

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上 (2年間で2,460単位時間以上) 認定されることが卒業要件となる。				1 学年の学期区分	2期
				1 学期の授業期間	15週

●教育課程編成委員会

＜花き生産コース、グリーンコーディネートコース 分科会＞

氏 名	所 属	任 期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	①
蓮沼 清光	埼玉県インドアグリーン協会 前理事長 日彰商事(株) 代表取締役	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	①
島田 守	鴻巣花き(株) 代表取締役 (一社) 日本花き卸売市場協会 監事	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	③
吉田 誠	(有) 吉田園芸 代表取締役 (一社) 日本花き生産協会 理事 埼玉県花き園芸組合連合会 会長	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—
伊藤 弘充	同 グリーンコーディネートコース コース長 実習農場 農場長代理		—

＜野菜生産コース 分科会＞

氏 名	所 属	任 期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	①
金沢 充	富士食品工業(株) 農産部長	R3. 4. 1. ～ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
加藤 修一	同 野菜生産コース コース長、教授		—
湯本 達夫	同 野菜生産コース 主事		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—

<フラワーコーディネートコース 分科会>

氏 名	所 属	任 期	構成
立川 瞳	(一社) 全国技能士会連合会 理事 (一社) 埼玉県技能士会連合会 会長 埼玉県職業能力開発協会 理事・審議員 埼玉県フラワー装飾技能士会 前会長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
向江 正智	株式会社 日比谷花壇 人材開発部 チーフ	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
柿沼 真吾	同 フラワーコーディネートコース コース長		—
橋詰 保奈美	同 フラワーコーディネートコース 主任		—

<造園コース 分科会>

氏 名	所 属	任 期	構成
高橋 康夫	(一社) 日本庭園協会 会長 (公財) 東京都公園協会 公園事業部 花と緑の市民カレッジ 事務局 元事務局長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
由比 誠一郎	(株) 誠和造園 代表取締役 (一社) 日本庭園協会 東京都支部 委員	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
中山 秀一	(株) 水庭農園 環境技術部 部長 樹木医	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
鈴木 常美	(有) ネイチャー・フレンズ 代表	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
細井 薫	同 造園コース 副コース長		—
布施 浩一	同 造園コース 主任		—

●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）

- ① 1コマ=90分を半期15週で完結する授業を1単位とする
 - ② 進級・卒業のためには、各コース・専攻で定める単位を修得することが必要である
 - ③ 成績は、前期末と後期末の定期試験（筆答、口答、レポート、実技）の結果に加えて、出席状況や学習態度等を加味して評価する
 - ④ 成績評価で59点以下のものは評定が不可、単位は不認定となる
- ※ 定期試験の結果が60点に満たない場合は再試験となる
- ※ 出席時数が、各科目の授業時間数の3分の2に満たない場合は、定期試験を受験するために補講を受けなければならない
- ※ 年次毎に後期末の評価が終了した時点で10単位以上の不認定科目がある場合は留年もしくは卒業延期となる

評価	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評定	優	良	可	不可
判定	合 格			不合格
単位	認 定			不認定

●学習の成果として取得を目指す資格と合格等の実績

資格名	級	令和2年度			令和元年度		
		受検者数	合格者数	内・金賞	受験者数	合格者数	内・金賞
園芸装飾技能士	2級	—	—	—	8名	8名	1名
	3級	—	—	—	14名	14名	4名
造園技能士	2級	4名	4名		4名	4名	2名
	3級	13名	13名		5名	5名	3名
フラワー装飾技能士	2級	23名	22名		20名	18名	1名
	3級	8名	8名		12名	12名	1名
商品装飾技能士	3級	8名	8名		6名	6名	1名
日本農業技術検定	2級	1名	1名	—	10名	7名	—
	3級	7名	6名	—	7名	6名	—
リテールマーケティング（販売士）	3級	5名	4名	—	3名	3名	—
色彩検定	2級	9名	8名	—	6名	6名	—
	3級	14名	12名	—	13名	11名	—
土壌医検定	3級	3名	3名	—	2名	1名	—
POP 広告クリエイター	—	8名	8名	—	14名	12名	—

※令和2年度の園芸装飾技能士の試験は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

※令和2年度の技能士の金賞受賞者はまだ発表されていない。

・技能講習などにより取得を目指すもしくは取得できる資格

グリーンアドバイザー／グリーンマスター／小原流本科／小型車両系建設機械運転技能者
玉掛技能者／小型移動式クレーン運転技能者／危険物取扱者 他

●卒業生数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）

コース・専攻	令和2年度				令和元年度			
	卒業生	就職者	未定者	他業種進学等	卒業生	就職者	未定者	他業種進学等
花と野菜の農業ビジネスコース								
花き園芸専攻					6名	6名	—	—
野菜生産専攻					5名	5名	—	—
フラワーデザインコース					18名	16名	1名	1名
造園・環境緑化コース					5名	5名	—	—
花き生産コース	4名	4名	—	—				
野菜生産コース	3名	3名	—	—				
グリーンコーディネートコース	7名	6名	1名	—				
フラワーコーディネートコース	17名	13名	2名	2名				
造園コース	4名	4名	—	—				

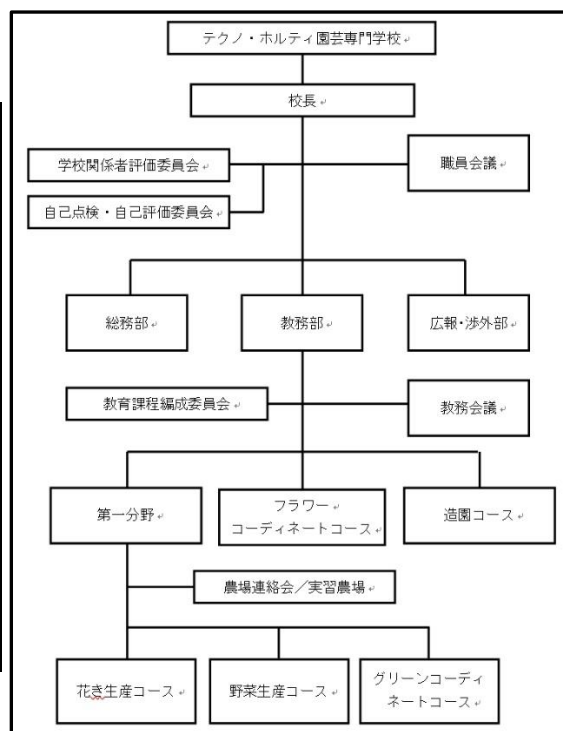
<令和2年度卒業生の主な就職先>

(株)関東地区昔がえりの会、(株)第一花壇、(有)フローラ黒田園芸、(有)青木園芸、(株)グリーンアンドアーツ、(株)日植ガーデン、(株)花弘、(株)プライムガーデン、(株)プロトリーフ、(株)リバルデ、(有)荻原植物園、(株)なにわ花いちば、他

③ 教職員

●教職員数と組織

区 分	専任	非常勤 嘱託等	非常勤	計
校長	1	—	—	1
副校長	—	—	—	—
教員	11	2	—	13
助手	—	—	—	—
講師	—	—	61	61
事務職員	4	—	—	4
その他職員	—	—	8	8



●教職員の専門性

区分	主な担当科目、授業内容	専門性 有資格・業界との関係等
専任	園芸流通、ビジネスマナー	学校長
専任(嘱託)	園芸流通	広報・渉外担当
専任	ビジネスマナー	教務部長、リテールマーケティング(販売士)1級、色彩検定1級、カラーコーディネーター1級、7Jファシリテータ、グリーンアドバイザー、ジョブカード作成アドバイザー
非常勤嘱託	花き生産技術	名誉校長、元埼玉県園芸試験場長、園芸文化賞受賞 著作「切花栽培 技術マニュアル」ほか多数
非常勤嘱託	野菜生産技術	教授、元東京都農林水産部～農業改良普及員、農業専門技術員、普及所長など歴任 著作「軟弱野菜 - これからの技術と経営」ほか多数
専任	園芸実習、花き生産技術	花き生産コース長、農場長、7Jファシリテータ、花き生産者
専任(嘱託)	野菜生産実習	野菜生産コース長、元埼玉県東松山農林振興センター 農業支援部長、農業改良普及員
専任(嘱託)	野菜生産実習	第1コース主事 元埼玉県農業大学校勤務
専任	グリーンコーディネート、卒業研究、	グリーンコーディネートコース長、教務次長、1級園芸装飾技能士、職業訓練指導員(園芸科)、7Jファシリテータ、元園芸生産社勤務
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	フラワーデザインコース長、教務次長、1級フラワー装飾技能士、職業訓練指導員(フラワー装飾科)、7Jファシリテータ、元生花店勤務
専任(嘱託)	造園基礎知識、課題学習	教務次長、造園副コース長、グリーンアドバイザー、福祉住環境コーディネーター2級、屋上緑化コーディネーター、自然観察指導員、ガーデンデザイナー
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	教務主任、フラワーコーディネートコース担当、2級フラワー装飾技能士、元生花店勤務
専任	造園施工	教務主任、1級造園技能士、2級園芸装飾技能士、グリーンアドバイザー、元造園会社勤務
専任	園芸実習	教務係、東京農業大学卒業

非常勤講師 または委託	園芸流通	公社) 園芸文化協会 理事・事務局長
〃	園芸流通	一社) 日本庭園協会 会長
〃	園芸流通	(株)サカタのタネ コーポレートコミュニケーション部長
〃	園芸流通	(株)誠文堂新光社月刊フローリスト 編集長
〃	園芸流通	(株)花弘 営業企画室 ヒューマンリソース担当課長
〃	園芸流通	(株)京橋花き 常務取締役
〃	園芸流通	さいたまヨーロッパ野菜研究会 主幹
〃	園芸流通	パナブラス(株) 代表取締役
〃	園芸流通	(株)イケガミ 業務部長
〃	園芸流通	花き生産や園芸教室の指導に従事
〃	園芸流通	公社) 園芸文化協会 元事務局長
〃	園芸文化論	コンスタンス・スプライ・フลาวースクール サーティフィ ケートコース修了
〃	分類・形態学	(株)フラワーオークションジャパン 取締役
〃	病理害虫学	住友化学園芸(株)、元研究開発部長
〃	病理害虫各論	住友化学園芸(株) 元普及部長
〃	土壌肥科学、(資格) 日本農業技術検定	首都圏土壌医の会 会長
〃	花と緑の商品知識、フィールドワーク	財) 埼玉県生態系保護協会 会員、ホームセンター 元園芸講 座講師
〃	育種・繁殖	大学院博士課程在籍
〃	花き生産技術	花き生産会社 代表
〃	花き生産技術	花き生産会社 勤務
〃	花き輸出入概論	クリザール・ジャパン(株) 副会長
〃	食品加工論、加工実習	野菜ソムリエプロ
〃	植物販売技術	坂野ガーデンにてバラの育種に従事
〃	植物販売技術	ガーデン関連会社 勤務
〃	特殊空間緑化	(株)岩崎電気 勤務
〃	特殊空間緑化	(株)日植ガーデン 勤務
〃	グリーンコーディネート実践	ガーデン植栽や園芸教室の指導に従事
〃	マーケティング	(有)河野経営研究所 代表取締役
〃	農業簿記	会計事務所勤務
〃	農業簿記	会計事務所勤務
〃	農業簿記	会計事務所勤務
〃	植物管理技術	ガーデンセンターでの勤務
〃	フラワーデザイン基礎	フラワー装飾技能士1級、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
〃	フラワーデザイン	埼玉県技能士連合会 会長、黄綬褒章受勲
〃	フラワーデザイン	2000JFTD ジャパンカップ優勝
〃	フラワーデザイン	フラワーデザインスクール秋桜花 代表
〃	フラワーデザイン	はなのみせ花井生花 代表、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
〃	フラワーデザイン	公社) 日本フラワーデザイナー協会 名誉本部講師
〃	フラワーデザイン	(株)SK 花企画 代表取締役
〃	フラワーデザイン	ベリーブーケ 代表
〃	樹木学、造園管理	樹木医、元板橋区立熱帯環境植物館館長
〃	造園基礎	(有)金子園芸 代表取締役
〃	造園施工	(株)誠和造園 代表取締役
〃	造園管理	特殊空間緑化の施工会社での勤務
〃	造園管理	スポーツターフ管理会社勤務
〃	造園設計	造園会社 常務取締役、1級施工管理技士
〃	デザイン、(資格) 商品装飾展示技能士	フリーランス(ショッピングディスプレイ)、商品装飾展示技能士1級
〃	カラーコーディネート、(資格) 色彩検定	色彩検定1級、日本色彩研究所認定色彩指導者
〃	園芸装飾、(資格) 園芸装飾技能士	おりかさ園芸 代表

非常勤講師 または委託	グリーンコーディネート	佐野園芸 代表、黄綬褒章受勲、現代の名工
〃	(資格) フラワー装飾技能士	職業訓練指導員(フラワー装飾科)、公社) 日本フラワーデザイナー協会本部講師
〃	造園施工、(資格) 造園	1級造園技能士、1級造園施工管理技士、造園会社経営
〃	(資格) N F D	職業訓練指導員(フラワー装飾科)、公社) 日本フラワーデザイナー協会本部講師
〃	(資格) リテールマーケティング	リテールマーケティング(販売士) 1級、アップセルビジネス研究所 代表
〃	(資格) POP	日本POP サミット協会副会長、Rプラン 代表
〃	(選択) 花木盆栽	日本盆栽教室連盟 師範
〃	(選択) 生け花	華道小原流師範
〃	(選択) アロマセラピー	香草塾 主宰、アロマセラピスト
〃	(選択) ボタニカルアート	NHK 文化センター植物画 講師
〃	(選択) CAD	東京都職業訓練校講師(CAD)、PAD 代表
〃	(選択) 写真	カルチャースクールでの講師

●教職員研修

<基本方針>

テクノ・ホルティ園芸専門学校に所属する教職員は常に研鑽を怠らず、学生（もしくは保護者）の夢や希望を叶え、同時に学生に対して社会人・業界人として必要な知識や技能もしくはその素養を与え、さらに関連業界に対して有意な人材を輩出するよう努めなければならない。

<令和２年度の実績>

令和２年度の実績については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から例年参加していた講習会や視察等が中止となることが非常に多かった他、感染防止対策として、参加を控えた講習会等も多く、例年よりも少なくなった。

研修日	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
7月27日	花卉懇談会セミナー（中止）	花卉懇談会（東京農大）
9月18日	切花新品種の確認、主要生産者の情報収集	大田市場 花き部
10月29日	イングリッシュガーデン、ガーデンセンター視察、情報収集	ジョイフル本田ほか
11月20日	花き・野菜新品種の確認、農場運営のノウハウ吸収	トキタ種苗大利根研究農場
12月11日	遠隔教育の取り組みと改正著作権法と補償金制度について	職業教育・キャリア教育財団
2月27日	花卉懇談会フォーラム（オンライン）	花卉懇談会（東京農大）

＜令和３年度の計画＞

講習会やセミナーの受講、各種の展示会における新品種・新商品等の確認などを通じて、学生へ還元できる知識・技術等を習得する。ただし、令和３年度も新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、講習会やセミナー等が開催中止、オンラインでの実施になることが予想されるが、可能な限り研修が実施できるように努めたい。

研修予定	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
６月	切花新品種の確認、主要生産者の情報収集	大田市場 花き部
６月	フューネラル装飾(葬儀の花)の現状と新技法の習得・視察	ユ－花園
７月	専門学校新任教員研修（１年次）	埼玉県専修学校各種学校協会
７月	全国の農業法人との情報交換、新しい農法の習得	新農業者フェア
７月	フラワー装飾用の新資材の確認、各種資材使用方法の習得	松村工芸見本市
７月	花卉懇談会セミナー	花卉懇談会（東京農大）
１０月	園芸・農業・造園資材、新技法等の確認と習得	IFEX、次世代農業・ガーデン EXPO
１１月	花き・野菜新品種の確認、栽培方法の習得	トキタ種苗
１月	全国の農業法人との情報交換、新しい農法の情報収集	新農業者フェア
２月	花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会（東京農大）
２月	ラッピング・ギフト関連の新商材の確認、使用方法の習得	インターナショナルギフトショー
２月	花きの新品種・優秀品種の確認、生産技法の習得・情報収集	関東東海花の展覧会
随時	マネージメント／コーチング／カウンセラー講習	埼玉県職業能力開発協会ほか
随時	生産者や生花店、造園会社との積極的な情報交換	—

④ キャリア教育・実践的職業教育

●キャリア教育、就職支援への取組状況

個々の学生の希望を重視した指導とサポートを実施している。

1年次の前期（コースに所属する前）にクラス担任と面談し、その時点の希望等を確認。

1年次の後期からは、コースに分かれ専任教員と面談を重ねる。

過去の求人・就職企業の状況や卒業生・企業から得た情報を正確に伝え、同時にインターンシップを有効に活用することで、本人の希望とのミスマッチを防ぎ、確実な就職へ結び付けられるように指導している。

また、業界の現状や企業側が求める人材などの理解を深められるように、毎年1年次の2月に企業からの職員派遣を得て就職ガイダンスを行っているが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。＜以下は、令和2年2月の実績＞

企業名	主な業務内容
農業組合法人ハイフラワー	パンジー、ビオラをはじめとした多品種にわたる花苗の生産
小林花卉	カランコエをはじめとした鉢花、花苗の生産
トキタ種苗(株)	野菜の育種や種苗の生産販売、資材の開発・販売
(株)Life Lab	第一次産業の求人情報サイトの運営や人材紹介サービス
(株)上尾グリーンガーデン	観葉植物のレンタル、販売、装飾や植栽
(株)プロトリーフ	園芸用土の販売、園芸店の運営や造園施工、デザイン
(株)パークコーポレーション	青山フラワーマーケットを主とした店舗やスクール、カフェの運営
(株)ユー花園	フューネラル装花、ブライダル装飾、フラワーショップ
(株)矢口造園	公共施設、個人住宅等の造園工事、植栽工事
(有)国定造園	公共施設での造園工事

さらに、ビジネスマナーの授業において応募書類の作成や面接対策をするのみならず、具体的な活動を始める時点で、書類作成・模擬面接・訪問マナーなどを個別に指導している。

●実習・実技等の取組状況

本校では、開校当初より実習や演習に重点を置いて、即戦力たる人材養成を図っている。

このために、企業・団体から協力を得て、インターンシップによる現場の経験や、実践的な講師の派遣を受けることで教育効果を高めている。

【企業との連携によるインターンシップ】

＜インターンシップの実施時期（各約2週間）＞

- ・1年次 11～12月
- ・2年次 5～6月、11～12月

＜インターンシップによる利点＞

- ・学校で学んだことが実践できると同時に、学校で学べないもしくは学ばないことを経験できる
～ 社会人として働く練習の機会、社会人に必要な事柄を知る機会を提供できる
- ・将来の職場選択に有効
～ どんな職場があるかを知る機会、失敗が少ない就職活動の基礎を提供できる

＜主なインターンシップ企業＞

(株)日比谷花壇、(株)ユー花園、第一園芸(株)、(株)花弘、(株)花門フラワーゲート、トキタ種苗(株)、
(株)ミヨシ、(株)はこねフローリスト、(株)テイクアンドグブ・ニーズ、(株)パークコーポレーション
青山フラワーマーケット、(株)ゼントクコーポレーション ブケ・オ！・ブケ、(有)吉田園芸、戸塚園芸、
(株)プラネット、(株)ジョイフル本田、片倉工業(株)マルベリーガーデン、富士食品工業(株)、
(株)足利フラワーリゾート あしかがフラワーパーク、東部緑地(株)、西武造園(株)、(有)石正園、(有)麻布植祐、
(有)蓮や鈴木造園、植彌加藤造園(株)、(株)曽根造園、(株)京都造園 ほか

＊これらの企業以外にもインターンシップの際に学生を送り出している

＊必ずしも毎年、希望者(実習者)がいるとは限らない

＊インターンシップに関する連携の契約書を交わしていない企業も一部掲載している

【企業との連携によって授業を実施】

契約を締結して授業への協力を得ている企業（【 】内は主な授業科目名）

企 業 名	企 業 概 要（説明）
有限会社東武フラワー 東武フラワーデザインアカデミー 【フラワーデザイン応用】	埼玉を拠点にして堅実に生花販売やウェディング装飾を行っている企業。 代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。同時に、現在は(一社)全国技能士会 連合会理事、(一社)埼玉県技能士会連合会会長などを兼務。精力的に後進の 指導を行っている。
株式会社 SK 花企画 【フラワーデザイン応用】	軽井沢を拠点としてホテルウェディングやフラワーショップを運営してい る企業。代表は長野県・信州の名工、(一社)全国技能士会連合会認定の全技 連マイスターを受章。全国のホテル装飾担当者や生花店経営者に精力的に技 術指導を行っている。
フラワーデザインスクール 秋桜花 【フラワーデザイン応用】	代表は日本のみならず、中国や韓国など海外においてデモンストレーション やコンテスト出場者の指導を行うと共に、フラワーショップ経営者への技術 指導などを精力的に行っている。
株式会社水庭農園 【造園管理Ⅱ】	苗木等の生産からスタートして創業 80 年超。官公庁、民間企業の庭園・公園・ 緑地・広場などの造園工事を行っている企業。
佐野園芸 【グリーンコーディネート】	埼玉を拠点として関東一円でインドアガーデンの普及に努めている企業。 代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。社員を技能グランプリに出場させる など後進の指導に熱心のうえ、植物の取扱いや装飾に優れている。
おりかさ園芸 【グリーンコーディネート 実践Ⅰ】	代表は、園芸販売・装飾の企業を経た後に独立。埼玉県インドアグリーン協 会教育部長、(一社)日本インドアグリーン協会技能グランプリ競技員であ り、植物の生産や取扱い、装飾に優れている。

⑤ 様々な教育活動・教育環境

●学校行事への取組状況（令和２年度の実績）

令和２年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入学式は任意参加で５月に実施し、授業開始を６月とした。このため夏季休業等の短縮により授業時間を確保することに努めた。また、文花祭等の学校行事も規模を縮小して行った他、見学も例年よりも少ない回数での実施となった。

<全校的もしくは学年単位での取り組み>

月度	行事	概 要
５月	入学式	
８月	夏期農場実習	秋～冬の花や野菜の播種、灌水作業、除草・病害虫防除作業など
９月	鴻巣花き市場見学	流通の要である市場の重要性を理解させる
10月	文花祭	日頃の学習成果を発表する。
２月	卒業・進級作品展	２年間、もしくは１年間の学習成果を発表する。
３月	卒業式	

<コースによる見学・視察等>

月度	見学先・イベント名など	概 要	対象
８月	筑波実験植物園	学術的に管理された植物園の見学	FC、GC
９月	大田市場 花き部（リモート）	国内最大の花き市場の仕組みやセリの状況などを見学	FD
	ユウ花園（リモート）	フューネラルフラワーの装飾技法等を見学・確認	FD
10月	ジョイフル本田	ボタニックガーデンを見学、施工方法を確認	FC、GC、LA
11月	ヨロ研カフェ	さいたまヨーロッパ野菜研究会の取り組みを見学	FC、VC、GC
	イオン羽生農場	植物工場の見学	VC
	トキタ種苗 オープンデー	花・野菜の新品種と生育状況等を見学	VC

表の「対象」に記載した記号の説明

FC：花き生産コース

VC：野菜生産コース

GC：グリーンコーディネートコース

FD：フラワーコーディネートコース

LA：造園コース

（次ページに記載の表においても同様）

＜コースによる学習成果の発表等＞

月度	イベント・施設名など	概 要	対象
9 月	岩鞍リゾートホテル	館内のフラワー装飾	FD
11 月	技能五輪全国大会	フラワー装飾部門の競技会	FD
1 月	行田商工センター会議室	ブライダルフラワー装飾の実践	FD
2 月	卒業・進級作品展	フラワーデザイン競技会	FD
3 月	春期農場実習	農場植物の繁殖・管理作業	FC・VC

＜地域との連携によるコースの活動＞

月度	施設・行事名など	概 要	対象
7 月	特別養護老人ホーム	観葉植物などによる館内の装飾：川里苑	GC
11 月	特別養護老人ホーム	クリスマス・フラワー装飾：川里苑	FD
12 月	埼玉県	小学生対象のフラワーデザイン教室：埼玉県民生活部青少年課	FD
3 月	特別養護老人ホーム	花壇植栽：おきな	FC
通年	ホームセンター	農場生産野菜の販売：カインズホーム	VC

⑥ 学生の生活支援

●学生支援への取組状況

各コースの担当教員が座学や実習などを通じて個々の学生の出席状況や学習意欲などの把握に努めている。同時に、教務担当者が非常勤講師とのやり取りなどによって同様の情報を把握している。これらの情報は、少人数制の利点を生かして教職員間で共有し、同時に定例の教務会議で対策などの意見交換を行っている。

この際、状況によってはコース担当教員から保護者へ連絡し、保護者も交えた面談を実施。学習への取り組み姿勢の更生、不登校・退学の防止に結び付けている。また、保護者からの相談については随時応じることとして、保護者に対するケアも行えるように対応している。

⑦ 学生納付金・就学支援

●学生納付金の取扱い（令和3年度入学生、金額、納入時期等）

学費（各コース共通）

	1 年次			2 年次		
	納入方法・期日			納入方法・期日		
	一括納入	分割納入		一括納入	分割納入	
		第 1 回納入	第 2 回納入		第 1 回納入	第 2 回納入
	合格通知受領から 2 週間以内	合格通知受領から 2 週間以内	入学前の 3 月 31 日 (1 年次の 7 月 15 日※)	1 年次 (2 年次直前) の 3 月 31 日	1 年次 (2 年次直前) の 3 月 31 日	2 年次の 7 月 15 日
入 学 金	100,000 円	100,000 円	—	—	—	—
授 業 料	950,000 円	550,000 円	400,000 円	950,000 円	550,000 円	400,000 円
実験・実習料	100,000 円	—	100,000 円	100,000 円	—	100,000 円
合 計	1,050,000 円	1,150,000 円		1,150,000 円	1,150,000 円	

*入学前の 3 月 31 日までに入学辞退を申し出た場合は、納入済みの学費の内、入学金を除いた授業料・実験実習料を返還する。

※分割納入・第 2 回納入の期日は「分納願」を提出した場合は、7 月 15 日に変更する。

諸費用（教材費・教具費・花材費等）

学年	納入 時期	花き生産コース	野菜生産コース	グリーン コーディネート コース	フラワー コーディネート コース	造園コース
1 年次	5 月	160,000 円	160,000 円	170,000 円	220,000 円	210,000 円
	9 月	60,000 円	60,000 円	80,000 円	150,000 円	80,000 円
	計	220,000 円	220,000 円	250,000 円	370,000 円	290,000 円
2 年次	5 月	90,000 円	90,000 円	100,000 円	300,000 円	90,000 円
	9 月	30,000 円	30,000 円	30,000 円	40,000 円	60,000 円
	計	120,000 円	120,000 円	130,000 円	340,000 円	150,000 円

*各コースで徴収している金額のおおよその平均額を表示している。（参考金額としてご覧ください。）

*それぞれ、必修科目に加えて、選択科目や資格取得科目の教材費等も含めている。

*資格の検定料などは、個々の受検資格によって異なり、別途実施団体宛に実費を納入しなければならない。

●活用できる経済的支援措置の内容等（令和3年度入学生、奨学金、授業料減免等）

詳しくは、学生募集要項に記載。（2年進級時に適用する「給費生制度」は学生生活の手引きに記載）

<学園独自の制度>

◇特別奨学金（入学時に適用）

奨学区分		給付額	給付条件
資格取得	A	30,000 円	園芸装飾技能士2級、フラワー装飾技能士2級、造園技能士2級、商品装飾展示技能士2級、日本農業技術検定1級、測量士補、リテールマーケティング(販売士)1級、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー2級、カラーコーディネーター1級、色彩検定1級、屋上緑化コーディネーター、簿記実務検定1級(全商)、ビジネス文書実務検定1級(全商)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)・県(都・府)連会長職
	B	10,000 円	園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士3級、造園技能士3級、商品装飾展示技能士3級、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)検定特級、グリーンアドバイザー、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー3級、リテールマーケティング(販売士)2級、カラーコーディネーター2級、色彩検定2級、日本農業技術検定2級、簿記実務検定2級(全商)、ビジネス文書実務検定2級(全商)、情報処理検定(全商)、ビジネスコミュニケーション検定(全商)
全国大会	入賞	30,000 円	技能五輪全国大会入賞(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ入賞(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会入賞
	出場	10,000 円	技能五輪全国大会出場(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ出場(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会出場
AO 事前学習	レポート 評価	50,000 円	6月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		40,000 円	7月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		30,000 円	8月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		20,000 円	9月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
	園芸常識 テスト	50,000 円	テスト結果が91～100点
		30,000 円	テスト結果が81～90点

*該当するものが複数ある場合は、その合算金額を給付する

(ただし、同一資格の上位級を取得している場合の下位級、同一大会で入賞した場合の「出場」は対象外)

◇卒業生紹介制度（入学時に適用）

- ① 兄弟姉妹、保護者が本学の在校生・卒業生の場合：入学金相当額 100,000 円を奨学金として給付する
- ② 本学卒業生の紹介により入学した場合：50,000 円を奨学金として給付する

◇農場奨学生制度（入学年度のみに適用）

入学後に年間 50 日間の実習農場管理業務全般を行える方に 250,000 円を奨学金として給付する

(事前に面接を行い、採用の可否を決定する) *テクノ・ホルティ園芸専門学校(埼玉校) 希望者

◇給費生制度（2年進級時に適用）

人物・学業共に優秀で目的意識の確かなものに対して、経済的な負担を軽減するために奨学金を給付する「給費生制度」を設けている。

ただし、給付希望する場合は別途試験（専門科目、一般常識）を受け、認定されなければならない。

給付金額 A 認定 50 万円、B 認定 25 万円、C 認定 10 万円、D 認定 5 万円

＜公的な奨学金、給付金など＞

◇農業次世代人材投資事業（準備型）：農林水産省・全国農業会議所

次世代を担う農業者となることを志向する 45 歳未満の者に対して、就農前の研修を後押しする資金が交付される制度

- ・対象学生 花き生産コース／野菜生産コース
- ・交付決定 事前に研修計画等を作成し、担当官（外部）との面接に通うことが必要
- ・交付金額 最大 150 万円／年
- ・その他 一定の条件を満たせば返還不要

*詳しくは、農林水産省のホームページを参照

http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html

◇日本学生支援機構の奨学金

学業成績が優秀で、かつ経済的な理由から学費の支払いが困難な者に対して、選考のうえ奨学金が貸与される制度（卒業後に返還が必要）

- ・第一種奨学金（無利子） ・第二種奨学金（有利子） ・入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

また、給付型（返還不要）の制度も設けられている

*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

*詳しくは、日本学生支援機構のホームページを参照 <https://www.jasso.go.jp/>

◇高等教育の修学支援新制度

住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯の学生が対象で、世帯収入などにより判定される適用区分によって、入学金および授業料が減免される他、日本学生支援機構の給付型奨学金も支給される制度

*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

*詳しくは、文部科学省ホームページ「高等教育の修学支援新制度」を参照

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

その他、上記を含め詳しくは募集要項および関係する組織・団体のホームページを参照のこと

⑧ 学校の財務

- 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は、情報公開ページを参照してください。

⑨ 学校評価

- 自己評価、学校関係者評価を踏まえた改善方策については、情報公開ページを参照してください。

⑩ その他

●学則（令和３年度）

テクノ・ホルティ園芸専門学校学則

第1章 総 則

（目 的）

第1条 本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、園芸に関する専門技術及び理論を習得させ、あわせて一般教養の向上を図ることを目的とする。

（名 称）

第2条 本校は、テクノ・ホルティ園芸専門学校という。

（位 置）

第3条 本校は、埼玉県行田市大字埼玉百歳通4768番1に置く。

第2章 課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日等

（課程、学科、修業年限並びに定員等）

第4条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は次のとおりとする。

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	学科定員	総 定 員	備 考
専門課程	園芸1類学科	2年	80名	160名	160名	

2. 本校の別科は、次のとおりとする。

科 名	修業期間	総 定 員	備 考
研 究 科	1年	80名	

（学年及び学期）

第5条 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2. 専門課程の学期は次のとおりとする。

前 期 4月1日から9月30日まで
後 期 10月1日から3月31日まで

（休業日）

第6条 本校の休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律で休日とされる日
- (3) 夏季休業日 8月 1日から8月31日まで
- (4) 冬季休業日 12月15日から1月14日まで
- (5) 春季休業日 3月26日から4月 7日まで
- (6) 開校記念日 10月 1日
- (7) 埼玉県民の日 11月14日

第3章 教育課程及び授業時数及び職員組織

（教育課程及び授業時数）

第7条 本校の教育課程及び授業時数は、別表1-1から1-5のとおりとする。

（始業及び終業の時刻）

第8条 本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

- (1) 専門課程は、9時から17時までとする。
- (2) 別科は、9時から17時までとする。

（職員組織）

第9条 本校に、次の教職員を置く。

- (1) 校 長 1名
- (2) 教 員 6名以上
- (3) 事務職員 1名以上

2. 校長は、教務をつかさどり、所属職員を監督する。

第4章 入学、休学、退学並びに単位の認定、卒業及び賞罰

（入学資格）

第10条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

専門課程は、高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところによりこれに準ずる学力があると認められた者とする。

（入学時期）

第11条 本校の入学時期は、次のとおりとする。

専門課程は毎年4月とする。

（入学手続）

第12条 本校の入学手続は、次のとおりとする。

- (1) 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書に必要事項を記載して、第19条に定める入学検定料を添えて指定する期日までに提出しなければならない。
- (2) 前号の手続を終了した者に対して選考を行い、校長が入学を許可する。
- (3) 本校に入学を許可された者は、入学許可の日から1週間以内に第19条の入学金を添え手続をとりなければならない。

（休学及び復学）

第13条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、30日以上休学する場合は、診断書及びその事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

2. 前項の者が復学しようとする場合は、届け出て復学することができる。

（退 学）

第14条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

（学習の評価、単位の認定）

第15条 学科の評価は試験により行う。

2. 履修した授業科目の出席時数が授業時数の3分の2以上あり、試験の結果が合格の場合は、当該授業科目の単位を認定する。
3. 卒業に必要な全科目の単位を修得した者については卒業を認定する。
4. 履修方法、学習の評価・評定、単位の認定に關し必要な事項は別に定める。

（卒 業）

第16条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価のうえ卒業証書（別紙様式）を授与する。

（褒 賞）

第17条 成績優秀にして、他の模範となる者は、これを褒賞することがある。

（懲 戒）

第18条 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

- (1) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で卒業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（入学金及び授業料、奨学金等）

第19条 本校の入学金、授業料等は、別表2のとおりとする。

2. 授業料は、出席の有無にかかわらず、所定の期日までに納入しなければならない。但し、事情により分納を認めることもある。
3. 入学前に前納された入学金、授業料、実験・実習料は、入学年の4月1日以降は返還しない。但し、入学年の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、原則として入学金を除く金員を返還する。
4. 本校では、学習者の経済的な負担軽減を図るために別表3の奨学金制度・学費軽減処置制度を設けることとする。

（寄宿舎）

第20条 寄宿舎に關す事項は、校長が別に細則で定める。

（健康診断）

第21条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

但し、平成4年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成6年4月1日から施行する。
但し、平成6年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成7年4月1日から施行する。
但し、平成7年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成9年4月1日から施行する。
但し、平成9年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成13年4月1日から施行する。
但し、平成13年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。
但し、第4章第10条及び別紙様式については、平成13年3月12日より施行する。

附 則
この学則は、平成18年4月1日から施行する。
但し、平成18年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成18年7月1日から施行する。

附 則
この学則は、平成12年4月1日から施行する。
但し、平成12年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成22年4月1日から施行する。
但し、平成22年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成26年4月1日から施行する。
但し、平成26年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成27年4月1日から施行する。
但し、平成27年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成30年4月1日から施行する。
但し、平成30年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、平成31年4月1日から施行する。
但し、平成31年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則
この学則は、令和2年4月1日から施行する。
但し、令和2年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

学校印 	氏 名	
	年	月 日

右の者は本校農業専門課程園芸一類
 学科（二年）の所定の課程を修めたので
 卒業証書を授けし文部科学大臣による告示
（平成十九年文部省告示第百八十四号）により専門士（農業
 専門課程）と称することを認める

学校法人 テクノ・ホルテウ園芸専門学校	年 月 日 校長 氏 名
------------------------	---

*選択科目(選択、資格取得)は、小計欄の時数以上の科目を選択することができる。

別表 1-2 園芸 1 類学科教育課程

時 数		1 年	2 年	計
科 目				
必修科目	園芸文化論	30		30
	野菜生産各論Ⅰ	60		60
	野菜生産各論Ⅱ		30	30
	分類・形態学	15		15
	土壌肥料学	15		15
	土壌肥料各論	15		15
	病理害虫学	15		15
	植物生理学	15		15
	園芸実習Ⅰ	120		120
	園芸実習Ⅱ		30	30
	育種・繁殖	30		30
	グリーンコーディネート	30		30
	ビジネスマナー	45		45
	園芸流通	30		30
	デザイン	30		30
	フラワーデザイン基礎	30		30
	カラーコーディネート	15		15
	造園基礎	30		30
	造園生産技術Ⅰ	135		135
	造園生産技術Ⅱ		240	240
	次世代農業Ⅰ	30		30
	次世代農業Ⅱ		30	30
	販売技術Ⅰ	15		15
	販売技術Ⅱ		45	45
	野菜有種・繁殖Ⅰ	15		15
	野菜有種・繁殖Ⅱ		45	45
	食品加工論Ⅰ	15		15
	食品加工論Ⅱ		15	15
	加工実習Ⅰ	15		15
	加工実習Ⅱ		15	15
	農業機械Ⅰ	15		15
	農業機械Ⅱ		45	45
	野菜栄養学	15		15
	施設管理	30		30
	野菜栽培指導法		15	15
	有機農業概論		30	30
	マーケティングⅠ	30		30
	マーケティングⅡ		30	30
	農業簿記Ⅰ	30		30
	農業簿記Ⅱ		30	30
	農業英語	15		15
	卒業研究		180	180
	インターンシップ	60	60	120
	管理実習	60	60	120
	校内行事	120	120	240
	小 計	1080	1080	2160
選択科目	選択	30	30	60
	資格取得	120	120	240
	小 計	150	150	300
合 計		1230	1230	2460

*選択科目（選択、資格取得）は、小計欄の時数以上の科目を選択することができる。

別表 1-3 園芸 1 類学科教育課程

時 数		1 年	2 年	計
科 目				
必修科目	園芸文化論	30		30
	花と緑の商品知識Ⅰ	60		60
	花と緑の商品知識Ⅱ		30	30
	分類・形態学	15		15
	土壌肥料学	15		15
	病理害虫学	15		15
	植物生理学	15		15
	園芸実習Ⅰ	120		120
	園芸実習Ⅱ		30	30
	育種・繁殖	30		30
	グリーンコーディネート	30		30
	ビジネスマナー	45		45
	園芸流通	30		30
	デザイン	30		30
	フラワーデザイン基礎	30		30
	カラーコーディネート	15		15
	造園基礎	30		30
	植物管理技術Ⅰ	60		60
	植物管理技術Ⅱ		90	90
	施設管理Ⅰ	30		30
	施設管理Ⅱ		60	60
	グリーンサービス基礎	30		30
	グリーンコーディネート実践Ⅰ	120		120
	グリーンコーディネート実践Ⅱ		360	360
	特殊空間緑化	30		30
	ガーデニング	30		30
	インテリア商品制作Ⅰ	30		30
	インテリア商品制作Ⅱ		30	30
	植物販売技術Ⅰ	30		30
	植物販売技術Ⅱ		30	30
	マーケティングⅠ	30		30
	マーケティングⅡ		30	30
	園芸指導技術		30	30
	卒業研究		150	150
	インターンシップ	60	60	120
	管理実習	60	60	120
	校内行事	120	120	240
	小 計	1080	1080	2160
選択科目	選択	30	30	60
	資格取得	120	120	240
	小 計	150	150	300
合 計		1230	1230	2460

*選択科目（選択、資格取得）は、小計欄の時数以上の科目を選択することができる。

別表 1-5 園芸 1 類学科教育課程

時 数		1 年	2 年	計
科 目				
必修科目	園芸文化論	30		30
	花と緑の商品知識Ⅰ	60		60
	花と緑の商品知識Ⅱ		30	30
	分類・形態学	15		15
	土壌肥料学	15		15
	病理害虫学	15		15
	植物生理学	15		15
	園芸実習Ⅰ	120		120
	園芸実習Ⅱ		30	30
	育種・繁殖	30		30
	グリーンコーディネート	30		30
	ビジネスマナー	45		45
	園芸流通	30		30
	デザイン	30		30
	フラワーデザイン基礎	30		30
	カラーコーディネート	15		15
	造園基礎知識	30		30
	造園基礎技術	30		30
	造園概論	30		30
	造園計画	90		90
	造園施工Ⅰ	60		60
	造園施工Ⅱ		180	180
	造園管理Ⅰ	60		60
	造園管理Ⅱ		180	180
	樹木学Ⅰ	30		30
	樹木学Ⅱ		30	30
	装飾技術	30		30
	造園設計		60	60
	造園材料		60	60
	現場緑化		45	45
	フィールドワーク		45	45
	測量		60	60
	課題学習		120	120
	インターンシップ	60	60	120
	管理実習	60	60	120
	校内行事	120	120	240
	小 計	1080	1080	2160
選択科目	選択	30	30	60
	資格取得	120	120	240
	小 計	150	150	300
合 計		1230	1230	2460

*選択科目（選択、資格取得）は、小計欄の時数以上の科目を選択することができる。

別表 2

課 程	専門課程
科	園芸 1 類学科
昼・夜の別	昼
入学検定料	20,000円
入学金	100,000円
計	120,000円
授業料	950,000円
実費実習料	100,000円
計	1,050,000円

別表 3

制度名	給付額	備考
特別奨学金制度	10,000円 ～ 50,000円	取得資格状況やコンテスト出場等の状況などに応じて給付する
卒業生紹介制度	100,000円 または 50,000円	本学卒業生の親族または、本学卒業生の紹介によって入学した者に給付する
農場奨学生制度	上限 250,000円	実習農場の管理全般を行う者に給付する

以上